

＜ もくじ ＞	
1. 2022年度連続講座第2回（10/15）の結果報告	1
2. 研究会からのお知らせ	2
3. 研究会からの概要報告	3
4. 事務局からのお知らせとお願い	6

1. 2022年度連続講座第2回（10/15）の結果報告

◆第2回のテーマ：「介護が必要になったら ～上手に使おう介護保険」

日 時：10月15日（土） 14：00～16：00

講 師：角田とよ子（シニア社会学会員、株式会社wiwiv（法人会員））

＜概要報告＞

企業を対象に仕事と介護の両立支援サービスを提供しており、本講座でも介護者へのメッセージという形でお話ししました。ポイントを紹介させていただきます。介護を親孝行と捉えると子どもがするのが一番となり、仕事は続けられません。両立のために「介護をプロジェクト化する」ことを提案しています。家族と介護の専門家がケアチームになり、目標や役割分担を話し合い、臨機応変に体制を見直します。介護保険サービスを利用するときは、要介護認定の訪問調査とサービス担当者会議に同席する、ケアマネジャーを最高の協力者にして一緒にケアプランを立てる、在宅介護が限界になったら「介護はプロに、家族は精神的な支えになる」と考えて施設入所を検討するなどが大事です。困ったときは、高齢者の総合相談・支援窓口である「地域包括支援センター」に相談します。ワークライフバランスにおいて、仕事はワークで介護はプライベートなことなのでライフに分類するのが一般的ですが、介護をあえてワークに分類し、ライフは私生活・自身の健康と考え、ワークを忘れる時間をもてるように工夫します。また「介護は6割でまあいいか」と思えると、介護をする人も受ける人も気が楽になります。夫と私の4人の親のエピソードを盛り込んだため、60分の予定が70分になってしまいました。



その後、袖井会長が、介護保険制度成立の裏話、海外の介護保険事情、介護保険の利用者増により負担割合の引き上げやサービスの利用制限が行われていることなどをお身内のお話を交えて解説してくださいました。参加者の皆様からは、介護費用や遠方に住む親御さんの住まい方に関する質問をいただきました。長女・長男（ご本人）・次女の3人が交代で遠距離介護をされた経験談をお聞きすることができ、大変勉強になりました。（角田とよ子 記）

＜アンケートの結果から＞

参加者へのアンケートでは、多くの方々からご回答をいただきましたが、ご参考までに代表的なご意見をいくつか抜粋してご紹介いたします。

*制度の歴史やサービスの利用法など体系が把握できてよかった。社会で介護の原点を思い起こし、家族で話し合うことの重要性を再認識させていただきました。…。(非会員 女性 70歳代)

*その人その家に合った介護を受けられる為には地域包括センターを上手く利用することが重要だと思いました。(非会員 女性 60歳代)

*講師の方の個人的体験も踏まえてのお話しでしたので、分かりやすかった。介護保険の場合は、各個人の個別事情が利用方法に影響することが多いように思う。介護度によるよりも、そのような個別事情ごとの事例が参考になる。(非会員 女性 70歳代)

*再雇用で働いている自分、隣には 80 代後半の両親が住んでいて何かあれば仕事を続けることに後ろめたさを感じていました。介護保険は払う自分にも利用する親にとっても双方の権利であることを理解しました。(非会員 女性 60 歳代)

*一人娘として両親の介護を経験しているので、介護保険は利用できる範囲でかなり利用させて頂き、基本的な内容については把握していると思っていた。今回の講座は配偶者もしくは自分が利用する立場という視点から、さらに踏み込んで考えながら拝聴させて頂きました。居住系サービスや施設選びに関する情報はとても参考になりました。また、知人の親御さんに介護の必要が生じた折に、…、同居家族があるということで介護保険のサービスが利用できないと聞いたおりに、なにかの間違いではないのかと思っていたのですが、本当にすいぶん利用しづらくなってきているのを実感いたしました。(会員 女性 60 歳代)

*企業側の立場から「仕事と介護の両立支援」等についてはある程度認識がありましたが、介護保険制度について全体を俯瞰して理解する一歩になりました。(非会員 女性 60 歳代)

*正に自分自身が介護される側の該当者年齢なのに『自分事』として捉えていなかったし、一人暮らしの妹のこと、離れて暮らしている娘達にとっても、身近で現実的な内容を提示して頂きました。面倒で、そうなりたくないという想いがあり逃げていました。この気持ちを引き出して頂いたことに気が付きました。…。(非会員 女性 70 歳代)

2. 研究会からのお知らせ

(1) 第82回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2022年11月24日(木) 15:00~18:00
 - 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
 - 3) テーマ：発表と討議 — 研究会出版本『コミュニティ学のスズメ』を読んだ上で
～エイジングとコミュニティのあり方について～
 - 4) 発表者：大下勝巳
 - 5) 参加費：300円
- ※ お問い合わせは、島村(ken-sima1941@jcom.home.ne.jp)までお願いいたします。

(2) 「災害と地域社会」研究会の共催イベント開催のお知らせ

【2-1：講演・座談会】

- 1) 日 時：2022年11月26日(土) 13:30~16:00
- 2) 会場、開催方法：オンライン開催(Zoom)
- 3) テーマ：「わすれな草：東日本大震災遺族の記憶を記録し伝えることについて《当事者》と語り合う」
- 4) 講演・座談会：
 - 基調講演：藤原規衣(元岩手朝日テレビ記者・アナウンサー)
 - 座談会登壇者：藤原規衣、倉堀康(岩手県大槌町の震災遺族)、野坂紀子(同左)、野坂真

【2-2：映像配信】

- 1) 日 時：2022年11月27日(日)~12月11日(日)
- 2) 会場、開催方法：オンライン開催(YouTubeの限定公開)
- 3) テーマ：震災遺族の聞き書き記録集『わすれな草』動画版(インタビュー音声と写真)および
X-1 講演・座談会の記録映像
- 4) 主 催：早稲田大学総合人文科学研究センター「現代社会における危機の解明と共生社会創出に向けた研究」部門

◆ 共 催：地域社会と危機管理研究所、シニア社会学会「災害と地域社会」研究会、早稲田大学総合人文科学研究センター「知の蓄積と活用に向けた方法論的研究」部門、大槌町安渡町内会

◆ 参加費：無料

※ お問い合わせ、参加のお申し込みは、長田(pfb00052@nifty.com)または、野坂(sn.nozaka@gmail.com)までお願いいたします。詳細は、ホームページあるいは添付のチラシをご覧ください。

(3) 第27回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2022年11月26日(土) 17:00:~20:00
- 2) 場 所：荒川区町屋2-21-2 フレスコ町屋 201
- 3) 発表者：鈴木真澄及びその他 YNS やまぶき任意後見サポート会
- 4) テーマ：認知症と任意後見制度

劇団「B笑座」第13回。

「認知症とともに生きる」です。

認知症らしさを体験することで新たな発見が生まれます。

劇団員募集しています。Zoomの参加もできます

※お問い合わせは、鈴木真澄 (mme_masumi@yahoo.co.jp) までお願いいたします。

(4) 第146回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2022年11月30日(水) 18:00~20:00
 - 2) 報告者：森義博(公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団・企画調査部長)
 - 3) テーマ：「人生の“真の長さ”とそれを踏まえた老後資金」
 - 4) Zoomでいたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。
(阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp 小島みさお kojima.misao01@gmail.com)
- ※ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

(5) 第38回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2022年12月7日(水) 17:30~19:30 Zoom開催
- 2) テーマ：

前半：「アドラー心理学」についての資料(全16頁)を読んで意見交換。

後半：Web忘年会 2022年を「漢字一文字」で振り返ってみよう。年頭に掲げた抱負【進】
【虹】【描】【縁】【知】【続】の自己分析結果でも良い。

ファシリテーター&忘年会進行 若井泰樹

※ご連絡ご質問は、中村昌子(nakamurayoshiko6@gmail.com)までお願いいたします。新参加者大歓迎!
です。

(6) 第37回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2022年12月15日(水) 15:00~17:00
 - 2) 場 所：Zoom開催
 - 3) 概 要：俱進会助成事業 インタビューデータ分担当をまとめて概観する
- ※参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

3. 研究会からの概要報告

(1) 第145回「社会保障」研究会報告要旨

- 1) 日 時：2022年10月26日(水) 18:00~20:20
- 2) 報告者：小矢野正夫(小矢野キャリア研究所代表/キャリアコンサルタント)
- 3) テーマ：時代の変遷、世代の変化、行動の変容~自分事として「高齢化」「キャリア」を考える
- 4) 参加者：14名

冒頭、報告にあたり『自分事』としての「高齢化」「キャリア」について認識を共有した。

対象とした世代は、①団塊世代 ②ポスト団塊世代 ③バブル世代 ④団塊ジュニア世代 ⑤ポスト団塊ジュニア世代 ⑥ゆとり世代)の6世代だが、自分の世代だけでなく、先輩世代/後輩世代の動きも意識しながら、戦後80年の年表(世代の変遷と各種指標、歴史的イベントを対照)に沿って、時代の流れを確認した。

・「32年ぶりの円安」、「50年ぶりの円安」の意味、日本の成長推移と現状を確認(世界の中の日本)

- ・6世代が、時代の変遷の中で、どういう形で生きて来たかを対比表で確認

「これまで」を再体験した後、高齢化の状況を数値や図表をもとに「今」を確認し、「これから」を考える形で説明を展開した。2025年問題に加えて、2040年問題、2054年問題への対応が重要であり、最多世代である「団塊世代」と「団塊ジュニア世代」の動向はインパクト大。

・“2040年に医療・福祉人材96万人不足(令和4年厚生労働白書)”―生産年齢人口の大幅減少(1200万人)と共に就業者数も急減するため、産業間の人材移動やIT活用を含む産業構造全体の見直し議論と併せて財源の担い手の議論が不可欠

急速な少子高齢化の「これから」を生きて行くための参考になるキャリア理論として、ライフキャリアレインボー、ブランドハップンスタンス、ライフシフト、ジェネラティビティを紹介し、最後にシニア学会のありたい姿についてイメージ図で説明した。

・機能的価値としての“リエゾン(連携・橋渡し)”と本源的価値としての“ジェネラティビティ(世代性、次世代育成)”が2本柱

・会員は「個別具体的な」生活者としての側面と、「抽象化理論化する」研究者としての両面を持ち、地域社会と学会の間を行き来する姿をイメージ

報告終了後の質疑応答では、「時代を振り返って見直したことは有用だった」「キャリアの考え方が今後の参考になった」「介護の現場が大変な状況だが、改善のための議論が進展しない。何故か?」

「今後新たな勉強会の立ち上げ企画」等の意見が出された。(小矢野正夫 記)

(2) 第81回「シニア社会のリテラシー」研究会開催の報告

- 1) 日 時：2022年10月27日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：発表と討議 ― 赤瀬川原平著『老人力』(ちくま文庫)を読んで
～『老人力』とは何かを考察する～
- 4) 発表者：島村健次郎

参加者に事前に送付した16ページのレポートに沿っての発表であったが、2分冊にまとめたレポート<その1>では、著作の中から拾ったキーワード集ということで、文中から老人力に関わるキーワードを154点列記した。特に「老人力は衰えではなく、力の変化である」「老人力は老人パワーではなく、シャシの力である」「そもそも老人力とは、転んでもただでは起きない力のことである」。そしてレポート<その2>では、「老人力を思う」ということで、問題意識、課題、疑問など11項目に整理したこと。問題意識の第1に掲げたことは、『老人力』というユニークなネーミングが先ず驚きであったこと。通常老人と力は対極のものであると思われているのではないか。まとめとして、老人力を「年輪の力」「愛と勇気と元気」「力まない力」であるなど15点の老人力を強調した。

発表の後、安田コーディネーターの進行で、出席者から当著書『老人力』に対する感想及び自分が考える「老人力」について積極的な意見交換が交わされたが、発言されたいくつかキーワードを列記すると、面白い力、多様な物差し、劣化ではなく変化、寛容力、いい加減、遊びの精神、ぼちぼち、しゃしゃり出ない、土俵を降りた自分などなどが「老人力」ではないかとのことでした。

最後に濱口座長はコメントとして、本日の様に多くの人が一冊の本を論ずることは素晴らしく有益であること。そして、赤瀬川原平氏の『老人力』の初版は1978年で、当時高齢者の統計の基準は60歳であり、その時代背景も勘案する必要があること。高齢化率が上昇しつつある中で執筆したことは、老人のマイナスイメージをプラスに転化するために効果があったと言えること述べられた。(島村 記)

(3) 第35回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2022年10月19日(水) 15:00~17:00
- 2) 場 所：Zoomによるオンライン
- 3) テーマ：俱進会調査研究 インタビューデータの整理方法確認とすり合わせ
 - ・インタビューデータまとめ状況の報告

各自のまとめ方のすり合わせを行い、大枠で違いが生じないようにすり合わせた。
次回研究会（11月9日）までに、各自まとめておく。

- あざみ野のインタビュー残り3件について

10月23日と30日に実施。これで全インタビューが終了する。

（森 記）

（4）第36回「社会情報」研究会の報告

1) 日 時：2022年11月9日（水） 15:00～17:00

2) 場 所：上野区民館

3) テーマ：俱進会調査研究 インタビューデータの整理方法と作業分担決め

• 分析作業について

①テーマごとに、発言を20名分 それぞれ担当部分をまとめる。

②傾向を出してコメントをつける。

次回研究会（12月15日）に提出。

• フリーディスカッション（まとめの方向性）

パターン類型（案）について富田さんが説明

パソコンの業務使用歴が現在のスマホ利用に影響を与えていることが読み取れそう。

現在のスマホ利用を4類型に分ける案を提示。

（森 記）

（5）第26回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

1) 日 時：2022年10月22日（土） 17:00～20:00

2) 場 所：荒川区町屋2-21-2 フレスコ町屋 201

3) 発表者：鈴木真澄及び会員（YNS やまぶき任意後見サポート会）

4) テーマ：認知症を楽しく過ごすには

びしょうざ
劇団「B笑座」第12回。

「人形劇」も混ぜて、楽しく寸劇を行いました。Zoom参加者も増えました。今後に活かしたいと思
います。

（鈴木真澄 記）

（6）第37回「ライフプロデュース」研究会の報告

1) 日 時：2022年11月4日（金） 17:30～19:30 Zoom開催

2) ファシリテーター：中村昌子

3) テーマ：ポリティカルコレクトネスについて、最新情報を共有したあと、

第167回芥川賞受賞作「おいしいごはんが食べられますように」（高瀬隼子 著 講談社）を読み、自由に意見交換を実施しました。

【ポリティカルコレクトネス 豆知識】

何が正しくて、正しくないのか。ポリティカルコレクトネスは、1980年代に多民族国家であるアメリカ合衆国で始まった概念であり、これが世界中に広がり、社会的な差別・偏見が含まれないような、公正・公平な表現や用語を使うことが推奨され、各国での表現の言い換えや訂正につながっている。世界に広がる「炎上」と言論の（不）自由について、Gap Kidsの広告、花王の「美白」、ファミリーマートの「肌色」のケースや、性的差別に繋がらないような職業の言い換えなど、分りやすい例で説明。炎上しやすいトピックス日米比較についても解説した。

【第167回芥川賞 おいしいごはんが食べられますように】感想の共有

多様性、ワークライフバランス、コンプライアンス、企業倫理の遵守など、弱者、マイノリティを守り、「正しさが尊ばれる現代の職場」にて、この小説は「負担を受け止める側の心理」が描かれている。「配慮は大切だがその皺寄せが肩代わりする側に押し寄せ、不満やもやもや感」が鬱積していく。

（以下、参加者感想の抜粋）

- ・食事は誰と食べるかが大事、営業職だった数多くの記憶から、接待する側で美味しく感じたことはない。美味しいか否かを測るのは「人間関係のリトマス試験紙」。「忘年会」は終身雇用の職場環境だから存在したものなのでは？現代にはもう通用しない。
- ・メンタルの弱さに寄り添う臨床心理士の立場としては、休職、退職、ひきこもりする人たちの肩代わりをする人たちの存在で世界は回っていると改めて感じた。体調不良で業務途中で早退、定時退社する芦川は実はメンタル一番強い。
- ・本は嗜好品。だから人それぞれ、様々な感想を持つ。私は、持ち歩く本、書齋で読む本、寝る前に読む本、三種類の本を並行して読んでいる。この本は、読んでいてイライラー、同時進行で読んでいた蒙古タンメンの本と比べると、マシュマロを食べている感じ。後半の展開を期待したが残念！
- ・図書館で予約したら100番目で、結局購入した。前職、北陸支店長時代に、取引先のお客さんが「忘年会」とは食を通して、自分の年齢を忘れて、年代を超えて、上の世代、下の世代と分かり合うものだと話されていたことが思い出された。作品自体は深みがない、繰り返し読む本ではない印象だった。
- ・3晩かけて何とか読んだが後味が悪い。ポリティカルコレクトネスや事前資料は参考になった。
- ・他人の仕事の後始末を被って頑張っても認めてもらえない社会、「正しさ」を尊重しないと世の中が回っていかない不条理さ。私は登場人物、芦川のようなタイプが大嫌い！
- ・僕らはこの本の登場人物の3倍生きている。この世代の価値観に、距離感を保ちつつ、この本を読むことは大切だと思う。
- ・私自身の現在の職場の同僚たちの8割は主人公たちと同年代、表面下で実は、この本の様な鬱積した人間関係の現実が渦巻いているであろうことは十分に想像できる。

以上、50代から80代後半の参加者の読後感の抜粋だが、「食と職場と恋愛」というテーマで描かれたこの作品、今回は評価が二分され、否定的な感想が目立った。

この場に、登場人物と同年代が同数いたら、さて、どんな評価になったであろうか。いずれにしろ、この作品が、現代社会のありふれた職場の（陰）の空気を象徴する一冊であることは間違いない。また、参加者がわが身の実体験を呼び覚ましながらか、主人公の3名、二谷、芦川、押尾の心理を探りつつ、自らの「食の履歴」と「職場の人間関係」について考察できたことは有意義だった。（中村昌子 記）

4. 事務局からのお知らせとお願い

< 会員情報変更時のご連絡のお願い >

コロナ禍中、各種ご連絡をeメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・eメールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。

当面、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせくださいますようお願いいたします。

< 12月 JAAS News の発行日 >

次回 JAAS News 第280号の発行日は、12月21日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、12月14日（水）までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1037
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>